

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和7年度】

2026年 3月 28日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 154-0004

所在地 東京都世田谷区太子堂1-12-27 コンフォートテラス1005号

評価機関名 合同会社フェアリンク

認証評価機関番号

機構 12 - 213

電話番号 03-6379-1449

代表者氏名 井上 浩之



以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	井上 浩之	福祉、経営	H0201050
	②	三木 真生子	福祉	H2301037
	③	瀧田 奈津未	福祉	H2401108
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	障害児多機能型事業所			<input type="checkbox"/> 食事を対象にする
評価対象事業所名称	児童発達支援・放課後等デイサービスいっぱい			指定番号 1354200485
事業所連絡先	〒	182-0035		
	所在地	東京都調布市上石原2丁目29番6号 ペガサスビル1階		
	TEL	042-444-6885		
事業所代表者氏名	森山 由美子			
契約日	2025年 10月 17日			
利用者調査票配付日(実施日)	2025年 10月 27日			
利用者調査結果報告日	2025年 12月 17日			
自己評価の調査票配付日	2025年 10月 17日			
自己評価結果報告日	2025年 12月 17日			
訪問調査日	2026年 1月 8日			
評価合議日	2026年 2月 15日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査の一環として、担当評価者が一定時間、事業所に滞在し、実際のサービス提供場面における子どもの室内活動の様子を別室からミラー越しに観察した。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。

本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2026年 3月 28日

事業者代表者氏名 森山 由美子



1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)保護者の方との連携、住んでいる地域、所属している園や学校との連携を大切にして「縦に続く療育」を目指していきます。</p> <p>2)お子様と保護者の笑顔が増えるよう、好きな事、得意な事を一緒に「探していき、困り感だけでなく、それぞれのお子様の強みを見つけていけるような幅の広い療育内容を取り入れていきます。</p> <p>3)1人1人の発達段階を考えて、出来た！が増える「子別」の支援を提供します。</p> <p>4)遊びの中から学ぶソーシャルスキルトレーニングを中心とした「総合型支援」を提供します。5)「クリエイティブ」に特化した療育を行っています。クリエイティブとは「創造的」「創作的」「独創的」と言った意味の言葉です。巧緻性を高める創作活動はもちろんですが、周りや人と比べず、自分自身を創り出し、自分らしく過ごしていける力を高めていきます。</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・療育は、1人だけでなく、チームで進めて行く仕事と理解し、報告・連絡・相談をおこなえること ・否定的な発言はせずに、物事をポジティブに受け止めていくことができること ・運動や勉強を教える指導者にならずに、子どもの気持ちを受け止められる療育者であること <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>私達いっばいの職員は、1人1人「十人十色」の発達特性を考えて、それぞれの「子別」の療育を提供することを目指しています。職員間で意見を出し合い、受け入れ、答えをみんなを出していける臨機応変な考え方が出来るようになってほしいと考えております。お子様とご家族の未来と一緒に想像していくことが、私達の使命であると考えています。</p>

《事業所名：児童発達支援・放課後等デイサービスいっばい》

調査対象

調査開始時点での登録者のうち、利用実績のある保護者全員。ただし対象は世帯とし、複数の子どもが通っている場合は年齢が最も低い子どもに対するサービスについて回答を求めた。

調査方法

・インターネットを介した無記名式のアンケート
 ・事業所に依頼して保護者のメールアドレスに調査票を送信してもらい、回答後、評価機関のメールアドレスに直接返信してもらった。その際、回答の匿名性に配慮し、回答者のメールアドレスは秘匿とした。

利用者総数
 利用者家族総数(世帯)

19
19

共通評価項目による調査対象者数
 共通評価項目による調査の有効回答者数
 利用者家族総数に対する回答者割合(%)

アンケート	聞き取り	計
19	0	19
19	0	19
100.0	0.0	100.0

利用者調査全体のコメント

・共通評価項目全体で「はい」の回答の割合が約90%に達している。中でも問1(子どもの身体機能・健康の維持・促進)、問2(子どもが興味・関心を持てる活動)、問13(個別支援計画作成時の要望把握)、問14(支援計画等サービス内容のわかりやすい説明)では、回答者の全員が「はい」を選択している。一方、「いいえ」の回答は全体を通して1件のみで、「どちらとも言えない」の回答も、最も多かった問4(社会性の定着)においても、その割合は約16%にとどまっている。問10(子ども同士のトラブルへの対応)、問15(不満や要望への対応)、問16(外部の苦情相談窓口に関する説明)では、「非該当・わからない」の割合が20~30%程度を占めている。
 ・共通評価項目に加え、総合的な満足度を5段階の選択肢を示して尋ねたところ、最上位の「大変満足」が19人中16人、「満足」が3人で、以下、「どちらとも言えない」「不満」「大変不満」の回答はなかった。回答率が100%の結果であり、保護者の満足度は非常に高い水準にあると言える。
 ・利用者調査の一環として、活動室における実際の療育の場面観察をおこなった。担当評価者2名で別室からミラー越しに観察した。

利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 事業所に通うことが、子どもの身体の機能や健康の維持・促進の役に立っているか	19	0	0	0
実際のアンケート調査票の質問文(以下、Q):事業所に通うことが、お子さんの身体機能や健康状態に良い影響を与えていると思いますか				
2. 事業所での活動は、子どもが興味や関心を持てるものになっているか	19	0	0	0
Q:事業所での活動は、お子さんが興味や関心を持てるものになっていると思いますか				

3. 事業所に通うことが、子どもの情緒面での発達(感情のコントロールを身につける等)の役に立っているか	18	1	0	0
Q:事業所に通うことが、お子さんの情緒面での発達(感情のコントロールを身につける等)の役に立っていると思いますか				
4. 事業所に通うことで、子どもに社会性(人と人との関わり合いやルール等)が身についているか	15	3	0	1
Q:事業所に通うことで、お子さんに社会性(人と人との関わり合いやルール等)が身についてきたと思いますか				
5. 子どもの様子や支援内容(体調変化時の対応含む)について、事業所と情報共有できているか	18	1	0	0
Q:お子さんの様子や、支援の内容(体調変化時の対応含む)について、事業所と情報共有ができていますか				
6. 家族に対する精神的なサポート(子育てに関する悩み相談や進路相談、家族間交流の機会の提供等)は役に立っているか	18	0	1	0
Q:ご家族に対する精神的なサポート(子育てに関する悩みや進路の相談、家族間交流の機会の提供等)は役に立っていると思いますか				
7. 事業所内の清掃、整理整頓は行き届いているか	17	2	0	0
Q:事業所の生活スペースは清潔で整理された空間になっていると思いますか				
8. 職員の接遇・態度は適切か	18	1	0	0
Q:職員の言葉遣いや態度、身だしなみなどは適切だと思いますか(職員としてふさわしいと思いますか)				
9. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	16	0	0	3
Q:お子さんがけがをしたり、体調が悪くなったときの職員の対応は信頼できますか				

10. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	14	0	0	5
Q: 子ども同士のトラブルやいじめ等があった場合の職員の対応は信頼できますか				
11. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	18	0	0	1
Q: 職員はお子さんの気持ちを大切にしながら対応してくれていると思いますか				
12. 子どものプライバシーは守られているか	16	2	0	1
Q: お子さんやご家族のプライバシー(他の人に見られたくない、聞かれたくない、知られたくないと思うこと)を職員は守ってくれていると思いますか				
13. 個別の計画作成時に、子どもや家族の状況や要望を聞かれているか	19	0	0	0
Q: お子さんの支援に関する計画を作成したり見直しをする際に、事業所はお子さんやご家族の状況や要望を聞いてくれますか				
14. サービス内容や計画に関する職員の説明はわかりやすいか	19	0	0	0
Q: お子さんに対する支援の計画やサービス内容など、事業所での生活についての職員の説明は、わかりやすいと思いますか				
15. 利用者の不満や要望は対応されているか	15	0	0	4
Q: 事業所に対して不満に思ったことや要望を伝えたとき、職員はきちんと対応してくれていると思いますか				
16. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	13	0	0	6
Q: 事業所の利用に関して何か困ったことがあったときに、外部の窓口(役所や第三者委員など)にも相談できることを職員はわかりやすく伝えてくれましたか				

調査対象

対象は調査開始時点の登録者のうち利用実績のある利用者全員。回答者(回答方法)の内訳は、利用者の家族が本人の気持ちを推察して回答した割合が約5割、利用者本人による回答が約3割、利用者が家族と相談しながら回答した割合が約2割となっている。

調査方法

・インターネットを介した無記名式のアンケート
 ・事業所に依頼して保護者のメールアドレスに調査票を送信してもらい、回答後、評価機関のメールアドレスに直接返信してもらった。その際、回答の匿名性に配慮し、回答者のメールアドレスは秘匿とした。

利用者総数

34

共通評価項目による調査対象者数
 共通評価項目による調査の有効回答者数
 利用者総数に対する回答者割合(%)

アンケート	聞き取り	計
34	0	34
33	0	33
97.1	0.0	97.1

利用者調査全体のコメント

共通評価項目全体で「はい」の回答の割合が約84%に達している。中でも、問3(職員による相談対応)、問4(共有スペースの清潔・整頓)、問7(子ども同士のトラブルへの対応)では、回答者の概ね95%以上が「はい」と回答している。一方、「どちらとも言えない」と「いいえ」の回答を合わせた割合が最も高かったのは問13(外部の苦情相談窓口の案内)で約24%、次いで問6(病気やけがをした時の職員の対応)の約18%、問2(他の利用者との関わりの楽しさ)の約15%となっている。問13では「非該当・わからない」の回答割合も約49%と最も高くなっている。
 ・共通評価項目に加え、総合的な満足度を5段階の選択肢を示して尋ねたところ、最上位の「とても満足」の割合が約70%、「少し満足」と「どちらとも言えない」がそれぞれ約15%、以下、「少し不満」、「不満」の回答はなかった。
 ・利用者調査の一環として、活動室における実際の療育の場面観察をおこなった。担当評価者3名で別室からミラー越しに観察した。

利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 事業所での活動は楽しく、興味の持てるものとなっているか	30	2	1	0
アンケート調査票の質問文(実際は漢字にふりがなを付している。以下、Qと表記):「いっぱい」でのかつどうやあそびは、おもしろいですか(自分に合っていると思いますか)				
2. 事業所での仲間との関わりは楽しいか	27	5	0	1
Q:「いっぱい」で、ほかの利用者といっしょに過ごす時間は楽しいですか				

3. 職員は、話し相手や、相談相手になってくれるか	33	0	0	0
Q:職員はあなたに話しかけたり、あなたの相談にのってくれたりしますか				
4. 事業所内の清掃、整理整頓は行き届いているか	32	0	0	1
Q:「いっぱい」では、食事をする場所やトイレなどはいつもきれいで、かたづいていると思いますか				
5. 職員の接遇・態度は適切か	33	0	0	0
Q:職員のことばづかいやたいど、身だしなみなどは、きちんとしていると思いますか				
6. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	25	5	1	2
Q:あなたがけがをしたり、病気などでぐあいが悪くなったときに、職員に安心してまかせることができますか				
7. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	32	0	0	1
Q:ほかの利用者との間のけんかや、子ども同士のいじめなどがあつた場合、職員はきちんとかいつつしてくれると思いますか				
8. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	31	0	0	2
Q:あなたは、職員があなたの気持ちを大切にしてくれていると思いますか				
9. 子どものプライバシーは守られているか	25	1	0	7
Q:あなたがほかの人に知られたくないひみつのことを職員はないしょにしてくれていると思いますか				

10. 個別の計画作成時に、子どもや家族の状況や要望を聞かれているか	29	0	0	4
Q:「いっぱい」での生活で、あなたが目標とすることを決めるときに、職員はあなたの気持ちや要望を聞いてくれますか				
11. サービス内容や計画に関する職員の説明はわかりやすいか	28	1	1	3
Q:職員は、あなたに対して、どのような支援や手助けをしてくれるのか、わかりやすく説明してくれましたか				
12. 子どもの不満や要望は対応されているか	28	4	0	1
Q:あなたが「もっとこういうふうにしてほしい」とか、「こういうことはいやだから、やめてほしい」と思ったことを職員に伝えたときに、職員はあなたの話をきちんと聞いて、考えてくれると思いますか				
13. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	9	5	3	16
Q:「いっぱい」のことで何かこまったことがあったときに、職員以外の人(役所や外部の相談係の人など)にも話ができることをわかりやすく教えてくれましたか				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	◎あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	◎あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○非該当
	◎あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	◎あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている ○非該当
	カテゴリー1の講評	
	事業の理念や方針を明示し、日常的なミーティング等を通じて職員への周知を図っている 運営主体である一般社団法人の代表理事が管理者と児童発達支援管理責任者(児発管)を兼務する形で2024年7月に開設した。専門資格及び職務経験を有する3名の正規職員が中心となり、子どもと保護者に寄り添った支援を通じて、安心して地域生活を送るための居場所となることを目指して、児童発達支援及び放課後等デイサービスの事業を開始した。事業の理念や方針を法人のホームページに掲載するとともに、年度事業計画及び支援プログラムに明示し、採用時の面接や日常的なミーティング等を通じて職員への周知を図っている。 日々の職員ミーティングで児発管からの重要事項の説明や意見交換等が行われている 原則として火～土曜の週5日営業で、午前中は保護者同伴の未就学児、午後は通園・通学先から帰ってきた未就学児または学齢児のクラスを前・後半の2つに分け、それぞれ3～4人の子どもに対してマンツーマンに近い職員体制で総合的な療育を実施している。午後の前半のクラスが始まる前の時間に正規職員を中心にミーティングの時間を設け、療育の振り返りや活動予定の確認の他、児発管からの重要事項に関する説明や職員間の意見交換等が行われている。職員の増員が確定している中で、今後、職員会議を定期化することを決めている。 定期的な保護者会等の機会に事業所が目指す療育の考え方について周知を図っている 座談会形式の保護者会を概ね半年に1回開催している。前回は20人ほどの保護者が参加して、育児に関する困りごとを共有するとともに、事業所の公認心理師から感覚統合について話をする時間が設けられた。そうした機会を通じて、また、保護者に対する日々の療育のフィードバックを通じて、事業所が目指す療育の考え方等の周知を図っている。利用世帯が地域の中で安心して生活できることを目指す中、自己評価の結果等を踏まえて、今後は定期的実施している防災・避難訓練の内容を含め、保護者に活動内容をよりいねいに伝えていくことが期待される。	

カテゴリ-2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリ-1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリ-2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 3/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(0●●)
評価	標準項目	
○あり ●なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
○あり ●なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリ-2の講評		
<p>自己評価の結果を踏まえて事業計画を組織的に策定する仕組みを整えることが期待される</p> <p>毎年の実施と公表が法的に義務付けられている自己評価の取り組みとして、保護者アンケートと職員による個別の振り返りを行い、その結果を踏まえた職員間の話し合いを通じて、事業所の強みと課題を明らかにしている。次年度以降の事業計画策定のプロセスに自己評価の取り組みを位置づけ、その分析結果を計画に反映していくことが望まれる。また、年度事業計画策定のフローを明らかにするとともに、定例化を予定している職員会議の年間の検討スケジュールを大まかに定めることで、事業計画を組織的に策定する仕組みを整えることが期待される。</p> <p>理念の実現に向けた中期の事業計画を策定し、関係者間で共有を進めることが期待される</p> <p>利用定員の関係で未就学児、学齢児とも新規の利用希望に応えきれない状態となっており、開設2年目の来年度より週の営業日を一日増やす計画を進めている。年度内に職員の増員を段階的に実施するとともに、交代制の勤務となるため、来年度より職員会議を定例化する方向で検討している。法人では理念である「切れ目のない療育」を実現するために、さらなる展開も視野に入れているが、まずは事業の基盤の強化を優先している。今後、中期的な事業計画を策定し、関係者間でビジョンを共有しながら、その実現に向けた取り組みを進めていくことが期待される。</p> <p>単年度の事業計画や収支予算書に基づき、毎月の利用実績の管理をおこなっている</p> <p>単年度の事業計画を作成し、その推進を図るための職員の業務分担を定めている他、収支予算書において、月ごとの事業収入と諸経費の見込み額を積算している。事業収入の積算根拠として、サービス別の利用見込人数を設定しており、それを指標として利用実績の管理をおこなっている。今後、事業計画において重点課題に掲げている項目については、取り組みの体制に加えて、具体的な推進の方法やスケジュール、年度中に達成を目指す程度や状態等を計画の中に盛り込むことで、期の途中での進捗状況の管理を客観的に行う仕組みを整えることが期待される。</p>		

カテゴリ-3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1 (3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリ-2 (3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当

地域の福祉に役立つ取り組みを行っている

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況

2/5

評価項目1

透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる

評点(○●)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
○あり ●なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当

評価項目2

地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている

評点(○●●)

評価	標準項目	
○あり ●なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
○あり ●なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当

カテゴリ3の講評

事業に関する国のガイドラインを職員間で読み合わせる機会を定期的に設けている

児童発達支援及び放課後等デイサービスの国のガイドラインを職員間で読み合わせる機会を年1回、新入職員が加わったタイミング等に設けている。児童福祉法に規定された『子どもを自立した個人として自己を確立していく「主体」として尊重する』姿勢を基本としている様子を今回実施した場面観察の中で確認することができた。基本的な法令の改正が続く中、今後も定期的に重要な根拠法令等の確認と職員への周知の取り組みを継続していくことが望まれる。特に虐待対応の強化に関しては、職員会議や研修の機会に全体で確認する機会を設けることが期待される。

事業所内外の苦情相談窓口について、利用契約時に書面に沿って保護者に説明している

事業所内外の苦情相談窓口について、利用契約時に重要事項の一つとして書面に沿って保護者に説明している。今回実施した利用者調査の結果を見ると、保護者からの苦情や相談に関しては、職員による日常的な対応を通じて概ね解決されている様子がうかがえる一方で、外部の窓口の説明に関しては、一部の保護者の記憶にあまり残っていないように見受けられるため、その利用方法等に関して、利用開始後も事業所からの通信や保護者会等の機会を通じて定期的に伝えていくことが望まれる。

事業所の機能や専門性の地域還元に向けた計画的な取り組みについての検討が期待される

日常的な療育活動の中で、ソーシャル・スキル・トレーニングの一環として、近隣の郵便局や商店等を子どもたちと訪れ、買い物体験をする取り組みに力を入れている。郵便局員や店員との日常的なやりとりを通じて、事業所の社会資源としての役割や存在意義を地域に広める活動にもなっている。法人は福祉事業の目的として「障がい者が輝ける共生社会の実現」を掲げており、今後、地域の関係機関のネットワークを活用しながら、事業所が保有する機能や専門性を地域に還元する取り組みを計画的に進めていくことが期待される。

カテゴリ4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		
評点(○○○○●)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
○あり ●なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリ2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 3/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		
評点(○○○●)		
評価	標準項目	
○あり ●なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ4の講評		
<p>発生が予測されるリスクを防止するための対策が部分的に講じられている</p> <p>リスク管理に関して、感染症対策に引き続き重点を置いている他、利用者が出入りする玄関が車の通行のある道路に面しているため、保護者の迎えの際に子どもが道路に飛び出す危険を防止するための職員の配置に気を配っている。療育中はマンツーマンに近い職員体制のもとで、これまで大きな事故は発生していないものの、室内での集団活動等において子ども同士がぶつかるアクシデントは時々起きており、事故には至らなくても、その恐れのある軽微な事案も含めて、危険を感じた職員の気づきを共有し、事故防止につなげる仕組みを整備することが期待される。</p> <p>事業継続計画の関係者に対する周知や救急救命講習等の実施に向けた検討が期待される</p> <p>年2回、防災訓練を計画的に実施しており、防災備蓄品の点検も併せておこなっている。避難訓練については、未就学児は紙芝居を読みながら頭を守る動作の練習を行い、学齢児は室内における危険箇所と一緒に確認する内容となっている。また、感染症の発生を想定した事業継続計画(BCP)を作成しているが、職員及び保護者に対する周知は十分とは言えず、大規模災害発生時のBCPの作成と併せて、今後の早急な取り組みが望まれる。その他、消防署等での救急救命講習や保護者等による引き取り訓練の定期的な実施についても検討が期待される。</p> <p>情報管理の仕組みについて、職員の勤務体制の変化等を踏まえた対策の検討が期待される</p> <p>来年度から週の営業日を一日増やすことにもない、職員の人数が増えるとともに交代制のシフト勤務となるため、職員間の情報共有の仕組みのレベルを一段階引き上げることが課題となっている。まずは事業所内のパソコンのパスワードや保存ファイルの管理の他、文書の管理に関する規程を作成し、共通のルールを確立したうえで、職員に対する周知を進めることが期待される。また、営業時間中及び営業時間外の不審者の侵入に備えたセキュリティの強化について、必要に応じて専門機関等のアドバイスを受けながら対策の検討を進めることが望まれる。</p>		

カテゴリ5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 8/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
◎あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している 評点(●●)		
評価	標準項目	
○あり ●なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
○あり ●なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる 評点(〇〇●●)		
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
○あり ●なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
○あり ●なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
◎あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
◎あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
◎あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
◎あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当

組織力の向上に取り組んでいる

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況

3/3

評価項目1

組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に
取り組んでいる

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当

カテゴリ5の講評

事業の展開や子どもの状況等を踏まえた職員体制を整え、業務の分担をおこなっている

来年度からの週の営業日増に向けて、児発管、経験5年以上の児童指導員、公認心理師の3人の正規職員を中心とした体制から人員の増強を図っている。契約児童のうち男児の割合が多く、直近で新たに男性職員を採用した。管理者を兼務する児発管は日常的に療育の現場に入って子どもの支援に当たるとともに、職員に対する育成、指導をおこなっている。療育及び事務関係の様々な日常業務の分担を割り振った表が作成されており、その中で公認心理師が子どもの発達検査や心理アセスメントの他、電話対応等、管理業務の一部を担う体制を整えている。

支援の質の向上を重点課題に掲げ、日々の療育後の振り返りに力を入れて取り組んでいる

今年度の事業計画における重点課題として支援の質と専門性の向上を掲げ、職場内のケース検討や研修の実施、外部研修の参加、資格取得の支援に取り組むとしている。その中でも日々の療育後の振り返りを重視しており、午後の前半のクラスが始まる前の時間をそれに充てて、個別支援の視点の共有等を図っている。今後、法人が職員に期待する専門性や能力を段階を追って習得し、成長していく道筋(キャリアパス)を明らかにし、それに基づく役割分担等を行うとともに、職員一人一人の学びや資格取得等に向けた指針として活用していくことが期待される。

労働環境の整備や福利厚生の充実等により、職員のモチベーションを高く維持している

職員が働きやすい環境を整えるために、所定時間内で業務が完結するよう、一日の業務フローの見直しが行われた。また、有給休暇の積極的な取得を奨励するとともに、入職2年目からリフレッシュ休暇を取得できる制度を設けるなど、福利厚生の充実に取り組んでいる。年度末には児発管が職員との個別面談を行い、業務に関する意向等の把握に努める中で、職員のモチベーションを高い水準で維持している。職員からは運営法人の理事との面談を求める声も寄せられており、現場と経営層との間の意思疎通を図る観点から、実現に向けた検討が期待される。

カテゴリ7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリ1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

前年度の7月に運営主体である一般社団法人の代表理事が管理者と児童発達支援管理責任者(児発管)を兼務する形で開設した。専門資格及び職務経験を有する3名の正規職員がスターティングメンバーとなり、子どもと保護者に寄り添った支援を通じて、安心して地域生活を送るための居場所となることを目指して事業を開始した。原則として火～土曜の週5日営業とし、午前中は保護者同伴の未就学児、午後には通園・通学先から帰ってきた未就学児または学齢児のクラスを前・後半の2つに分け、それぞれ3人前後の子どもに対してマンツーマンに近い職員体制で総合的な療育を展開してきた。職員間の緊密なコミュニケーションを図りながら、事業所が目指す療育の基本方針の共有に重点を置いて取り組みを進めてきた。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ○ 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

来年度からの週の営業日増に向けて、3人の正規職員を中心とした体制から人員の増強を図っている。今年度の事業計画では、支援の質と専門性の向上を重点課題に掲げ、職場内のケース検討や研修の実施、外部研修の参加、資格取得の支援に取り組むとしている。その中でも特に日々の療育後の振り返りを重視しており、午後の前半のクラスが始まる前の時間をそれに充てて、個別支援における視点の共有等を図っている。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

法人として「縦に続く療育」を目標とし、子どもの年齢による境目のないシームレスな支援を目指すと同時に、地域の関係機関と連携しながら、横につながる支援を重視している。前年度は子どもの通園・通学先から問い合わせを受けたり、連携を求められることもあったが、職員体制上の制約もあり、関係機関と情報を共有する時間を十分に持つことができなかった。

目標の設定と取り組み	<ul style="list-style-type: none">● 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった○ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<ul style="list-style-type: none">● 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<ul style="list-style-type: none">● 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

今年度に入って職員を増員したこともあり、子どもの通園・通学先をはじめとする関係機関に職員が出向いたり、リモート等を活用した会議の実施など、多様な方法で情報共有が行われている。職員が学校の授業の様子を実際に見学し、事業所内での様子との違いなどを把握したうえで、その内容を家族にフィードバックする取り組みや、事業所における子どもの生活や活動の様子を報告書にまとめて関係機関の担当者に伝達するなど、子どもが新しい環境にスムーズになじむための工夫がみられるようになった。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目		
サブカテゴリ1			
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	4/4
評価項目1 子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)	
	評価	標準項目	
	◎あり ○なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当
	◎あり ○なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	○非該当
	◎あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○非該当
	◎あり ○なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当
サブカテゴリ1の講評			
<p>ホームページで事業所が目指す療育の方針や特徴、活動内容などを伝えている</p> <p>事業所のチラシを教室前に張り出し事業所の特徴が通行人や近隣の方に分かるようにしている。ホームページでは「子別」の支援や保護者や関係機関との連携など特に事業所が大切に取組んでいる内容が記載され事業所の特徴が明記されている。また、療育内容及びクラス分けの概要が記載されており、子どもがどのクラスに適しているのか保護者がイメージしやすい内容になっている。今後写真を追加するなど視覚的に伝わりやすいホームページ作りを検討しており更なるニーズへの対応が期待される。</p> <p>事業所の状況について理解を得たうえで、見学や体験の申し込みを受け付けている</p> <p>新規利用の問い合わせは事業所のホームページまたは電話で随時受け付けている。現在は待機者が多く、希望してもすぐに利用できないことや送迎をおこなっていないことなどを事前確認事項として明記し、理解を得たうえで申し込みを受けようとしている。事業所の情報は地元自治体が毎年発行している「障害児・者通所施設一覧」という冊子にも掲載されている。同冊子は市のホームページからも閲覧可能となっている。</p> <p>体験の時から心理士が専門職の視点で子どもと関わり利用後の適切な療育へ繋げている</p> <p>見学の際は基本的に年齢に合ったクラスを体験してもらうが、問い合わせの際の聞き取りで子どもの特性や友だちとの関係づくりなど特定の悩みや状況に添うようなクラスでの体験を提案することがあるなど個別対応をしている。体験中は管理者が保護者から子どもの状況などを聞き取り、心理士が子どもの行動観察をしながら直接支援をおこなうなど役割分担をおこなっている。体験中の様子は心理士が決まった様式に記入し、子どもが利用するクラスの決定や利用開始後の適切かつ的確な療育に繋がれるように心理士が責任を持って一括管理している。</p>			

サブカテゴリー2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7/7
評価項目1 サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、同意を得ている <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している	○非該当
◎あり ○なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の同意を得るようにしている	○非該当
◎あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
◎あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように支援を行っている	○非該当
◎あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている	○非該当
◎あり ○なし	4. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリー2の講評		
<p>利用開始直後は同じ職員の配置や集団活動への段階的な参加等不安を減らす配慮がある</p> <p>利用開始直後は同じ職員が担当についたり、保護者からヒアリングした子どもが好きな玩具を準備しておくなど子どもの不安の軽減に努めている。特に緊張を感じることが多い集団活動の際には「途中から参加することもできる」ことを事前に伝えておくことで過度な緊張を感じず参加できるように配慮している。また、不安が特に強い子どもには安心できるアイテムを1つ握っていても良いことを伝え、他の子が気にならない音が出ないものの中から選んでもらうような工夫がある。</p> <p>子どもが普段の生活で慣れたものを取り入れ安心できる環境作りに努めている</p> <p>就学前の子どもに関しては、新しい環境の中でも安心感を得られるように家で呼ばれている呼び名で呼んだり、家で食べ慣れているおやつを準備するなどし、慣れていたら他のものに少しずつ挑戦してもらうなどの工夫がある。好きな本があれば自宅から持ってきてもらうのではなく、図書館から借りてきて準備し、事業所にもあるから安心だと思ってもらう。近い将来他の物でも大丈夫だと子どもが思っていけるように、返却期限がある本を敢えて利用し、徐々に事業所の中にあるものから選んでいけるようにする将来的なねらいと支援の工夫が確認できる。</p> <p>体験時に保護者の希望を聞き取り、契約時にはフェイスシートに記入してもらっている</p> <p>保護者の要望は体験時に管理者が丁寧に聞き取りをおこなっている。契約時はフェイスシートの要望欄へ記入をしてもらい、子どもの困り感や通園・通学先での様子も具体的に記入してもらっている。同時に子どもの好きなこと・得意なことも記入してもらうことで子どもの興味関心や望む活動のヒントとしている。契約時や面談時に子どもから希望を聞き取ることはしていないが、必ず体験をしてもらいどういことをする場なのかを経験してもらうことで子どもが通いたいと思うか確認する機会を設けている。</p>		

サブカテゴリー3

3 個別状況に応じた計画策定・記録

サブカテゴリー毎の
標準項目実施状況

11/11

評価項目1
定められた手順に従ってアセスメントを行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し、把握している	○非該当
◎あり ○なし	2. 子ども一人ひとりのニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
◎あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当

評価項目2
子どもや保護者の希望と関係者の意見を取り入れた個別の支援計画を作成している

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 計画は、子どもや保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている	○非該当
◎あり ○なし	2. 計画を子どもや保護者にわかりやすく説明し、同意を得ている	○非該当
◎あり ○なし	3. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている	○非該当
◎あり ○なし	4. 計画を緊急に変更する場合のしくみを整備している	○非該当

評価項目3
子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している

評点(〇〇)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
◎あり ○なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当

評価項目4
子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点(〇〇)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもに変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当

サブカテゴリー3の講評

保護者、通園・通学先の職員との連携を図り専門的視点でアセスメントをおこなっている

保護者・関係機関との連携を図り情報収集を丁寧に行い、家族関係や通園・通学先の職員との関係性を含め細やかに把握しており、アセスメントのプロセスが確認できる。また、公認心理師による行動分析をもとに、子どもの課題について専門的視点をもとに職員間で話し合いを行い、個別支援計画に反映している。そうした取り組みに加えて、今後は標準化されたアセスメントシートの活用や、事業所が重視している基礎的感覚から学習能力を獲得するまでの成長モデルである「発達のピラミッド」の考え方をアセスメントに取り入れるなどの検討が期待される。

子ども自身が通所する目標を設定できるような支援計画の作成に今後期待がされる

個別の支援計画は必ず保護者との面談をしてから作成・見直しをおこなっているため保護者の希望は反映される仕組みがある。一方で、面談への子どもの同席はなく、子どもへの意向確認も支援計画についてはしていないため、現状では子どもの希望が直接的には反映されにくい流れと様式になっている。送迎がないため、事業所へ通うための目標を立て、目的を意識することで自発的な通所意欲に繋げていく意味でも、子どもが自分の目標を立てる機会を設けることは事業所の強みとなるように思われる。

子どもの状況変化については職員ミーティングで日々欠かさず情報共有をおこなっている

子どもの状況変化については日課となっている職員ミーティングで情報共有を必ずおこなっている。計画の内容は作成前に職員間で話し合いを行う他、途中経過も共有し作成までに全職員が関わりながら作成していくため、共有が密にできている。ただ、ミーティング内容が記録に残っておらずそれぞれが頭の中で把握している状態である。今までは職員全員が事業所立ち上げメンバーであり人数も少なく意思の疎通がしやすい環境であったが、今後職員が増えていくことを考慮すると共有の方法やミーティングの記録の残し方を検討していくことが望まれる。

サブカテゴリー5

5 プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重

サブカテゴリー毎の
標準項目実施状況

6/6

評価項目1
子どものプライバシー保護を徹底している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、子どもや保護者の同意を得るようにしている	○非該当
◎あり ○なし	2. 日常の支援の中で、子どものプライバシーに配慮した支援を行っている	○非該当
◎あり ○なし	3. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている	○非該当

評価項目2
サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、個人の意思を尊重している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 日常の支援にあたっては、個人の意思を尊重している(子どもが「ノー」と言える機会を設けている)	○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている	○非該当
◎あり ○なし	3. 施設内の子ども間の暴力・いじめ等が行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底している	○非該当

サブカテゴリー5の講評

男性職員の採用により個室での同性介助が可能となりより細かな支援ができています

女性職員のみで対応する場合には保護者が承諾した場合と子どもが望む場合のみ異性介助をおこなうこともあり、基本的には男児が個室で着替える際などは個室の外で待機し、声かけで状況を都度確認するような配慮をしています。男性職員の雇用により男児に対しても同性介助が可能となり、現在は必要に応じて見守りが可能である。着替えは基本的に個室内で着替えることになっているが、外出先で服が濡れてしまった時の着替えなどはパーティションで区切るなどして活動室内で着替えることもあるが必ずプライバシーに配慮した工夫をしている。

子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した個別の支援をおこなっている

家庭によって価値観が異なることも少なくないが、丁寧な聞き取りと配慮により個別の支援をおこなっている。毎月クッキング活動をおこなっているが、苦手な食材や食の経験を確認している。ポテト作りの際に塩分濃度が気になる家庭があったが、保護者と相談しながら塩分を控えることで新しい食べ物にチャレンジすることに繋がられた。苦手な食材も必ずしも除去するのではなく、友だちと一緒に食べられる可能性も考えたり、味付けを好きなものにするなどの工夫をすることで食を広げたいという子どもと保護者の希望にも応えようとしている。

体験の時点で「やりたくない」などの気持ちを言って良いことを子どもに伝えている

子どもには体験にきた時に「やりたくない」などの気持ちを職員に言って良いという話を伝え、子どもが自分の意思を伝えることを大切にしている。活動に参加したくないと伝えるだけでなく、集団が苦手なのか活動内容が苦手なのか、やりたくない理由を聞き取っていくことでやりたくない要因を探り、どうすれば参加できるようになるのかを考えて支援し、やりたくないだけで終わらせず、「やりたい」といえる意思決定にも繋げていける支援をおこなっている。子どもがやらない選択をする際には保護者理解が不可欠なため丁寧に説明をしている。

サブカテゴリ-6

6 事業所業務の標準化

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況

0/5

評価項目1

手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点(●●●)

評価	標準項目	
○あり ●なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
○あり ●なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを定期的に点検・見直しをしている	○非該当
○あり ●なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当

評価項目2

サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点(●●)

評価	標準項目	
○あり ●なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
○あり ●なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映するようにしている	○非該当

サブカテゴリ-6の講評

手順書やマニュアルなど書類の整備が不十分で、今後改善されることが望まれる

新規職員の採用を機に、今まで職員全員でおこなってきた業務を分担し、担当制にすることで業務の見える化を図り新しい職員にも全体の業務が分かりやすいように表を作成した。表の活用により今後新たに業務内容や職員が増えることがあっても追加していくことで容易に管理が可能となることが期待される。日々のミーティングでは何をどうしていくかを話し合い決定し、標準化してきたものの議事録が残っていない。職員が増えるため、今後は議事録を残し文書としても共有していくことが求められる。マニュアルの整備も不十分であるため今後に期待される。

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ-6-4)

		サブカテゴリ-4	
サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	
		20 / 20	
1	評価項目1 個別の支援計画に基づいて子ども一人ひとりの発達の状態に応じた支援を行っている	評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 個別の支援計画に基づいた支援を行っている	○非該当
	●あり ○なし	2. 子どもの特性に応じて、コミュニケーションのとり方を工夫している	○非該当
●あり ○なし	3. 関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって、支援を行っている	○非該当	
評価項目1の講評			
<p>個別支援計画に沿って制作・運動活動を子どもごとに工夫して実施している</p> <p>個別支援計画に基づき、子ども一人ひとりの発達段階や特性に応じた支援を丁寧に実施している。サービス提供記録には支援目標が明示されており、職員は日々の支援において計画の意図を意識しながら対応している。活動内容としては、制作・運動を取り入れたプログラムが用意されており、同じプログラムの中でも、子ども一人ひとりの状態に応じて参加の仕方を工夫している。</p> <p>言葉だけではなく、子どもの状態に合わせて五感に働きかけるよう工夫されている</p> <p>子ども一人ひとりの特性や状態に応じて、適切なコミュニケーション方法の工夫が行われている。具体的には、言葉だけの指示が難しい子どもに対しては、絵カードや写真、ボードを活用するなど視覚的に理解できよう工夫して支援を行っている。また、職員自らが動作の手本を示すことで、子どもが理解しやすいよう工夫している。さらに、声のかけ方やタイミングを子どもの状態に合わせて合わせるなど、きめ細やかな配慮が見られ、子どもが安心して活動に参加できる環境が整えられている。</p> <p>関係機関と顔が見える関係をつくることで、密な情報共有による連携がおこなわれている</p> <p>子どもの支援において関係機関との連携を重視しており、直接出向くほか、リモート等を活用した会議の実施など、多様な方法で情報共有が行われている。特に、学校の授業の様子を実際に見学し、事業所内での様子との違いなどを把握し、その内容を家族にフィードバックする取り組みや、事業所内での様子を療育サービス報告書として作成し、各関係機関の担当者に伝達するなど、子どもが新しい環境にスムーズになじむための工夫がみられる。</p>			

2 評価項目2		この評価項目は入力できません	
【食事の支援がある事業所のみ】子どもが食事を楽しめるよう支援を行っている		評点()	
評価	標準項目		
○あり ○なし	1. 食事時間が楽しいひとときとなるよう環境を整えている	○非該当	
○あり ○なし	2. 子どもの状態やペースに合った食事となるよう、必要な支援(見守り、声かけ、食の形態や用具の工夫等)を行っている	○非該当	
○あり ○なし	3. 子どもが安全に食事をとれるよう取り組みを行っている	○非該当	
○あり ○なし	4. 食物アレルギーや疾患等については、医師の指示に従い、対応している	○非該当	
○あり ○なし	5. 食についての関心を深めるための取り組みを行っている	○非該当	
○あり ○なし	6. 子どもの状況をふまえ家庭での食事について助言を行っている	○非該当	
評価項目2の講評		この評価項目は入力できません	

3 評価項目3 子ども一人ひとりの状況に応じて生活上に必要な支援を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 身の回りのことは自分で行えるよう、必要な支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 基本的な生活習慣や社会生活上のルール等（あいさつ、マナー、交通ルール等）を身につけられるよう支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 集団活動を取り入れるなど、子どもの心身の発達や社会性が育つよう支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	4. 一人ひとりの有する能力を活かせるよう個別のプログラムを実施している	○非該当
●あり ○なし	5. 送迎は、子どもと保護者等の状況に応じて送迎方法を検討し、行っている	○非該当

評価項目3の講評

身の回りのことを子どもが自ら行えるような環境をつくり生活習慣を育んでいる

子ども一人ひとりの発達段階や特性に応じて、日常生活に必要な支援をおこなっている。たとえば登所時の支度では、子どもたちの目線に合わせて支度ボックスを配置することで自ら支度に取り組みやすい環境をつくるなど、段階的に支援内容を調整し自立に向けた工夫が丁寧に行われている。また、クラスの始まりと終わりには必ずあいさつを取り入れたり、所内で横断歩道を模した場面をつくり、交通ルールを確認するなど、基本的な生活習慣や社会生活上のルールを身につけられる支援が丁寧に行われている。

家族の困りごとに応じたプログラムを取り入れ生活力を育む支援が行われている

家族からの困りごとを受けて、子ども一人ひとりの生活場面に応じた具体的なプログラムを作成し支援している。たとえば、買い物の際には、実際に職員と一緒に店に出向き、購入手順や店でのマナー、お金の扱い方を学べるよう丁寧に支援している。また、公園に行きたいがトラブルが予想される子どもに対しては、職員が同行することで、安全に遊ぶ方法や他者との関わり方を体験できる環境を提供している。必要に応じた段階的な支援や教材の工夫により、生活場面や社会活動への参加を促しており、子どもの成長に繋がるように努めている。

発達の順序に沿った個別支援と工夫で子どもが安心して活動に参加できる環境がある

子ども一人ひとりの特性や能力を活かしたプログラムへの参加を柔軟に工夫している。感覚や姿勢・バランスなど体の基礎から運動・かたち・ことば、最終的に学習や思考に至るといった発達のピラミッドの考え方に基づいて、制作や運動などを取り入れた支援が行われている。自分のからだの大きさが認識できない子に対しては、模造紙で自分の人型をかたどって感覚的に理解できるようにするなど、子どもの段階に応じた取り組み方をさらに丁寧に工夫している。グループ分けや複数教材の活用により、安心して主体的に活動に参加できる環境づくりが行われている。

4 評価項目4 子どもの健康を維持するための支援を行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの健康状態について、保護者や医療機関等から必要な情報を収集している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの状態に応じた健康管理を行い、体調変化に速やかに対応できる体制を整えている	○非該当

評価項目4の講評

近隣の協力医療機関の協力もあり、子どもが安心して過ごせる環境がつけられている

子どもの健康状態について、入所時や日々の生活の中で、保護者から必要な情報を丁寧に収集している。近隣の協力医療機関との連携やアレルギーホットラインへの参加により、既往症やアレルギー情報を迅速に把握できる体制が整えられており、日常の支援や緊急時対応に活用している。薬の使用状況や体調の変化についても職員間で共有され、個々の子どもに応じた安全で適切な支援に反映されている。また、サービス提供記録の連絡欄やSNSを活用し、家庭と事業所間で子どもに関する情報が円滑に伝わるよう努めている。

子どもの体調の変化に対応できる体制を整えている

子どもの状態に応じた健康管理を実践し、日々の体調観察や異変の早期発見に活用している。職員は感染症対策の研修を年に1回受講しており、子どもが安全に過ごせるよう体制を整えている。グループ活動中や日常生活での体調変化にも対応できるよう、施設全体で支援や活動の調整が徹底されている。加えて、職員同士で情報を共有し連携を図ることで、異変に気づきやすく迅速な対応が可能な環境づくりも進めている。一方で、健康管理に関するマニュアルの整備は不十分であり、今後作成して体制をより明確化することが望まれる。

5 評価項目5 子どもの主体性を尊重し、施設での生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 日常生活の支援は子どもの主体性を尊重して行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子どもの状況や希望に沿って、多様な体験ができるようにしている	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 【放課後等デイサービス】 子どもの状況に応じて利用日や利用時間を設定している	○ 非該当
評価項目5の講評		
<p>子どもが希望する活動を自分で考え選べるよう支援している 日々のクラスでは、子どもが何をやりたいか、どう取り組みたいかを自然に選べるよう声かけに配慮して丁寧に支援されている。特別な活動などは、その活動内容や時間の流れを子どもと一緒に計画し考え判断して行動できる機会をつくっている。また自由活動なども子どもが挑戦したいことにすぐに対応できるような環境が整えられている。月1回のクッキングの活動ではすべての子どもが参加できるよう工夫するなどの取り組みにより、通所すること自体が楽しみとなり、さらに活動に主体的に参加したいという気持ちを育み、日々の学びや経験に繋がっている。</p> <p>不安がある子どもも安心して活動できる環境を整えて支援している 不安が高く集団に入れられない子どもに対しては、パーテーションで空間を区切るなどして、安心して過ごせる環境を提供している。時間の経過に伴い徐々に広い空間で活動に参加できるよう工夫しており、発散が不足している場合には室内の物を整理して十分に運動できる環境を整えている。また、自由時間が苦手な子どもも楽しめるよう、職員ミーティングで環境設定の工夫を毎回検討している。さらに、活動中の声かけや教材の提示方法を工夫し、子どもが落ち着いて安心して参加できる配慮も行っている。子どもの様子に応じて柔軟に対応できる点も特徴である。</p> <p>多様な体験の機会を用意し、子どもが主体的に参加できるよう支援している 子どもの状況や希望に沿って、制作や運動、外出体験など多様な活動の機会を提供している。近隣の郵便局への訪問も年に2回程度行い、日常生活では経験できない体験を取り入れている。利用日は固定枠で空きが少ない状況にあるが、振替や希望に応じて心理士と連携しできるかぎり柔軟に調整されている。また、子どもたちが楽しみながら挑戦できるよう細やかな配慮を行い、子どもがやりたいと言った活動は翌週に実現できるよう取り組まれている。子どもたちの期待に応えるこうした支援は、主体性を育み、学びや達成感に繋がっている。</p>		
6 評価項目6 家族との交流・連携を図り支援を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子どものサービス提供時の様子や家庭での普段の様子を家族と情報交換し、支援に活かしている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 家族の意見や要望を活かした支援を行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 家族の状況に配慮し、相談対応や支援を行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 子どもや家族に合った療育方法等について助言している	○ 非該当
評価項目6の講評		
<p>日常の情報交換を丁寧に行い、支援に的確にいかしている 日々のサービス提供時や家庭での普段の生活について、保護者との情報交換を丁寧におこなっている。サービス提供記録には保護者からの連絡欄を設け、職員全体で情報を共有できるよう工夫しているほか、LINEなども活用し、面談希望や相談も柔軟に受け付けている。こうした取り組みにより、家庭での様子や子どもの状況を正確に把握でき、個々の子どもに応じた適切な支援の計画や実施に反映されている。保護者と職員の連携を日常的に行うことで、安心して子どもを任せられる環境が整えられている。</p> <p>家族の希望や情報を活かして活動内容を工夫することで「子別」の支援をおこなっている 保護者の意見や要望を丁寧に聴き取り、支援に反映している。たとえば、学校で上履きが履けない子に対しては、サーキット活動の中で自然に練習できる機会を設けるなど、家庭での困りごとや子どもの特性に応じた支援を工夫している。また、子どもの好みや興味に関する情報も活用し、活動への意欲や達成感を高める支援が行われている。こうした個別の工夫により、子どもたちが安心して活動に取り組める環境が整い、家庭と事業所双方で一貫した支援が行われている。</p> <p>家庭環境やそれぞれの立場を考慮して、状況に合わせた相談や助言で療育を支えている 父親・母親それぞれの立場や思い、悩みや状況に配慮し、時間をかけて個別に対話しながら、子どもに合った療育方法を一緒に考えている。家庭内での動線や宿題への取り組み方など、具体的な課題も丁寧に確認し、困りごとは活動の中に取り入れて段階的にステップアップできるよう支援している。また、必要に応じて面談を行い、子どもの発達段階や特性に応じた助言も実施している。こうした家族へのきめ細かな支援により、子どもと家庭に合わせた療育が実践され、家庭内での生活や学校生活への適応にも繋がっている。</p>		

7	評価項目7 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている	評点(〇〇)・非該当1												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">評価</th> <th style="width: 70%;">標準項目</th> <th style="width: 15%;"></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>● あり ○ なし</td> <td>1. 地域の情報を収集し、子どもの状況に応じて提供している</td> <td>○ 非該当</td> </tr> <tr> <td>● あり ○ なし</td> <td>2. 必要に応じて、子どもが地域の資源を利用し、多様な体験や交流ができるよう支援を行っている</td> <td>○ 非該当</td> </tr> <tr> <td>○ あり ○ なし</td> <td>3. 【児童発達支援センター】 地域全体の在宅障害児や関係機関等を対象に、施設・設備や人材・プログラムを有効に活用した支援を実施している</td> <td>● 非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		● あり ○ なし	1. 地域の情報を収集し、子どもの状況に応じて提供している	○ 非該当	● あり ○ なし	2. 必要に応じて、子どもが地域の資源を利用し、多様な体験や交流ができるよう支援を行っている	○ 非該当	○ あり ○ なし	3. 【児童発達支援センター】 地域全体の在宅障害児や関係機関等を対象に、施設・設備や人材・プログラムを有効に活用した支援を実施している	● 非該当	
評価	標準項目													
● あり ○ なし	1. 地域の情報を収集し、子どもの状況に応じて提供している	○ 非該当												
● あり ○ なし	2. 必要に応じて、子どもが地域の資源を利用し、多様な体験や交流ができるよう支援を行っている	○ 非該当												
○ あり ○ なし	3. 【児童発達支援センター】 地域全体の在宅障害児や関係機関等を対象に、施設・設備や人材・プログラムを有効に活用した支援を実施している	● 非該当												
	評価項目7の講評													
	<p>地域の情報を丁寧に収集し、事業所内に掲示するなどわかりやすく提供している</p> <p>市のイベントや地域の催しに関する情報を積極的に収集し、掲示などで子どもや保護者にわかりやすく提供している。特に夏休みなどの長期休暇には、多くの地域イベント情報をまとめて掲示し、子どもが参加や体験の機会を自ら選べるよう工夫している。こうした取り組みにより、地域での活動に関心を持ち、興味を持った体験に前向きに参加する意欲を育むことができている。また家庭とも情報を共有することで、子どもに合わせた支援に生かされ、安心して地域活動に関わることができる環境づくりが進められていると考えられる。</p> <p>近隣の地域資源を活用し、多様な体験や交流ができるよう支援している</p> <p>近隣の郵便局でははがきの購入や年賀状の投函、近隣店舗での買い物体験、公園や神社でのどんぐり拾いなど、地域の資源を活用した多様な体験活動を計画的に実施している。子ども一人ひとりの発達や興味に応じて活動内容や難易度を調整し、安全かつ楽しめる形で行っている。こうした体験は日常生活では得られない学びや交流の機会となり、社会性や生活力を育むとともに、自分から挑戦して参加する姿勢や自信を養っている。また、今後は近隣の商店街へのインタビューなど、地域での体験の幅をさらに広げようとしていることは評価できる。</p>													

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	保護者との連携のもとで個別支援を進める中で、子どもが楽しく安心して活動に取り組める環境を整えている
	内容	2024年7月に開設した当事業所は、子どもと保護者に寄り添った支援を通じて、安心して地域生活を送るための居場所となることを目指している。児童福祉法に則り、子どもを自立した個人として自己を確立していく「主体」として尊重する方針を職員間で共有したうえで、子どもと保護者の意見や要望を丁寧に聴き取り、通園・通学先や家庭での生活における困りごとの軽減や、子どもが楽しいと感じることを増やすための目標を設定している。保護者との連携のもとで個別支援を進める中で、子どもが安心して活動に取り組める環境を整えている。
2	タイトル	子どもの発達段階を踏まえ、一人一人の特性や能力を活かしながら主体的に活動に参加できる環境づくりが行われている
	内容	感覚や姿勢・バランスなど体の基礎から運動・かたち・ことば、最終的に学習や思考に至る発達のピラミッドの考え方に基づいて、制作や運動などを取り入れた活動に取り組み、子どもの特性や能力を活かした柔軟な参加の仕方を工夫している。自分の体の大きさに対する認識が育っていない場合に、模造紙を床に敷いて子どもの体の輪郭を描き取り、その大きさを視覚的に理解できるようにするなど、子どもの発達段階に応じた取り組みを工夫している。また、グループ分けや複数教材の活用により、子どもが主体的に活動に参加できる環境づくりが行われている。
3	タイトル	地域の関係機関との連携を重視する中で、家庭及び関係機関の間で支援情報の共有を図り、子どもの安心感につなげている
	内容	法人として「縦に続く療育」を目標とし、子どもの年齢による境目のない支援を目指すと同時に、地域の関係機関と連携しながら横につながる支援を重視している。子どもの通園・通学先等の関係機関への訪問や、リモート等を活用した会議の実施など、多様な方法で情報交換が行われている。職員が学校の授業の様子を見学し、事業所内での様子との違いなどを把握したうえで、その内容を保護者にフィードバックする等の取り組み等を通じて、子どもが新しい環境になじむための工夫について家庭及び関係機関の間で情報共有が図られるようになっている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	来年度からの体制変更に向け、職員間の情報共有の仕組みの再構築が課題となる中で、定期化する職員会議の記録作成等の検討が望まれる
	内容	来年度からの営業日増に向けて、職員の増員とシフト制の勤務体制への切り替えを計画している。その中で職員間の情報共有の仕組みの再構築が課題となっており、取り組みの一つとして職員会議を定期化する方向で検討を進めている。これまでも正規職員を中心としたミーティングは行われていたが、会議録を残す必要性は特に認識されていなかった。今後はシフトの関係等で会議に出席できなかった職員を含め、検討経過や決定事項を全員で共有するために記録を作成するとともに、必要に応じて管理・指導職層が個別にフォローする等の対策の検討が期待される。
2	タイトル	避難訓練の内容や大規模災害等の発生を想定した事業継続計画の関係者への周知、及び救急救命講習の定期的な実施に向けた検討が望まれる
	内容	年2回、防災訓練を計画的に実施しており、防災備蓄品の点検も併せておこなっている。避難訓練では、紙芝居を読みながら頭を守る動作の練習をしたり、室内における危険箇所を子どもと一緒に確認しており、そうした訓練の内容を保護者にも伝えていくことが望まれる。また、感染症の発生を想定した事業継続計画(BCP)を作成しているが、職員及び保護者に対する周知は十分とは言えず、大規模災害発生時のBCPの作成と併せて、今後の早急な取り組みが求められる。その他、専門機関による救急救命講習等の定期的な実施についても検討が期待される。
3	タイトル	事業所が重視する子どもの成長モデルの考え方をアセスメントに取り入れるなど、根拠に基づく支援の質をさらに高める取り組みが期待される
	内容	アセスメントのプロセスにおいて、保護者や関係機関からの情報をもとに、家庭や通園・通学先での子どもの生活の様子を細やかに把握している。また、公認心理師による行動分析をもとに、子どもの課題について専門的視点をもとに職員間で話し合いを行い、個別支援計画に反映している。そうした取り組みに加えて、今後は標準化されたアセスメントシートの活用や、事業所が重視している基礎的感覚から学習能力を獲得するまでの成長モデルの考え方をアセスメントに取り入れるなど、根拠に基づく支援の質をさらに高めていく方向での検討の推進が期待される。